

トピックス 2005年 前期

1 陣痛促進穴の効用

2 インフルエンザ・風邪による高熱

3 メニエール病

陣痛促進穴の効用

20歳代後半の女性

出産予定日に遅れること2週間。入院前日に来院されました。お医者さんから、陣痛促進剤か、それで駄目な時は、帝王切開と言われていました。何とか自然分娩したいとの強い希望から、当院に来院されました。

通常の治療を行った後、背部に出る穴反応に円皮鍼をつけて治療を終わりました。患者さんに「明日か、明後日には強い陣痛が起こり、楽に出産出来ますよ」と説明しました。治療の翌朝、強い陣痛が始まり、午前8時に無事元気な女の子を出産されました。

陣痛促進穴は、出産が近くなり、もういつ出産してもいいですよと、体が教えてくれる反応です。ですから、自然な状態で出産を迎えることが出来るのです。

インフルエンザ・風邪による高熱・咳等の治療例

1. 小学校1年生の男の子

明日の午前から将棋の大会があり、どうしても参加したいとのことで来院されました。鍼治療は初めてです。但し、母親と姉は当院で治療を受けています。体を触りますと、火のように熱く、39度を超える高熱です。診脈すると頻脈で洪水のような強い状態です。上半身は熱いのですが、下肢（足）は少し冷たい状態でした。まだ、これから熱が出る様子です。そのことを説明し、治療に入りました。鍼は、当院で使っている、小児用のものを使いました。所定の治療を終え、検脈すると、洪水のような強い脈は消え、穏やかな柔らかい状態に変わっています。さらに熱かった体も、少し熱が下がっています。「明日の朝はもっと楽になるよ」と話をし、明日、朝1番で来院してもらうことを約束して、

治療を終えました。

翌朝来院。すっかり熱も下がり、元気な様子です。「これなら、大会に出れるでしょう」と話しつつ、治療を終えました。

後日、母親から「無事頑張れました」と、お礼の言葉を頂きました。

2. 小学校5年生の女の子

以前、小児喘息で定期的に治療をし、現在喘息はほとんど出ていない方です。週の半ばに高熱で来院されました。「週末(土曜日)にバスケットの試合があるため、出れるようになりますか。と、何とかお願いします」とのこと。体を触ると、手足を含め体全体が火のように熱い状態です。脈を見ますと、頻脈で強い状態です。「試合まで少し時間がありますから、間に合いますよ」と話、治療を開始しました。

所定の治療を終え、検脈すると、強い脈が柔らかくなり、落ち着いた感じに変わりました。

熱かった体も、少し熱が下がり楽になった様子です。また、明日も来院をお願いし、治療を終えました。

翌日来院。熱はすっかり下がりましたが、少し咳が残った様子です。診脈して、所定の治療を終えました。

中1日置いて、試合当日の朝来院。

少し残っていた咳もすっかり消え、試合に間に合いました。

3. 2歳の男の子

小児喘息の男の子で、喘息が出て咳が激しく続くので、診てほしいとのことでした。初めての鍼治療の体験です。

来院して、ベット上にオムツのみになってもらい、診察を開始しました。体を触ると、熱く、咳も頻繁に出ています。「これは風邪を引いて咳がひどくなっています」と話しつつ、検脈すると、やはり洪水のような強い脈の状態です。

当院で使用している小児用の鍼を使用し、所定の治療をおえました。少し熱が高いので、両手の水かきの穴を使いました。

検脈すると、洪水のような強い脈は、穏やかな状態に変わっています。咳は、まだ残っていますが、熱は少し下がっています。

「今晚少し熱が出るかも知れませんが、解熱剤は使わないでください。その方が早く直りますから」と説明し、治療を終えました。

翌日来院。すっかり熱は下がり、咳も出なくなっていました。診脈後、所定の治療を終え、「もう大丈夫でしょう」と話、今回の治療を終了しました。

今回三人の治療例を載せましたが、このほかにも多くの人が、子供から大人まで同じような症状で来院されています。

鍼の治療には似つかわしくないように思われますが、風邪やインフルエンザも、各経絡を整えることによって免疫力を引き上げ、自らの力で早く、これらの症状に打ち勝つのです。その結果、風邪等が治るのです。

お医者さんに行って、風邪薬等を服用して治すことは当たり前ですが、鍼治療によっても治すことができます。

「よく子供は、風邪を引きつつ抵抗力をつけていく」と言われます。この意味で、鍼治療は薬の力ではなく、自らの力で治すための手助けをし、風邪と戦いながら強い体を作っていきます。

ですから、鍼治療を受けている子供たちは、熱が出ていても元気です。

メニエール病についての症例

30歳代前半の女性

メニエール病について、その原因や病因は、インターネット上にも多数載せてあり、そちらに譲ることにし、経絡治療の立場からの記事を書きます。

この女性は、妊娠後期に治療に来られ、陣痛促進剤の使用によって、無事元気な女児を出産された方です。その後、育児に追われ、体調を崩し、激しいめまいと難聴を繰り返し替えられたとのこと。病院に通われ、投薬を受けるも余り改善しないため、当院に来院されました。

1年半程前に、ご主人に抱きかかえられて来られたことがあります。激しいめまいのため、全く動けず。少しでも動こうとすると、更に激しいめまいとなります。何とかベットに載せましたが、エビのように丸まった状態です。治療時間が取れないため、まず、救急法を施し、2・30分程そのまま待ってもらいました。

前の患者さんの治療を終え、すぐにベットのわきえ行き様子を伺うと、少し動けるようになっていて、そのまま、本治法を施しました。最後に施灸して治療を終えました。まだ少し、軽いめまいが残っているため、そのままベットで少し休んでもらい、回復を確認して帰宅してもらいました。

すっかり楽になり、びっくりされての帰宅となりました。その後、定期的に来院され、めまい・難聴等はほとんど発症しなくなり、元気に子育てをやらせておられます。

この方は、家庭の事情等もあり、週1回の治療でした。回復された現在も、2週間に1回、体調管理のため治療に来られています。

現在、メニエール病で苦しんでおられる方が多いと聞きます。インターネットを開いても、その多さにびっくりさせられます。

今回載せた記事のように、鍼・灸によっても、激しいめまい等の症状にも対処できます。

更に、継続治療によって各内臓の系統を整え、バランスをとることで、病いの本体を治していくことが出来ます。この症例から、経絡治療を見直していたければ幸いです。